

第43歩

「2025年問題と未来社会」

最近、「2025年問題」という言葉をよく耳にするようになりました。何が「問題」なのでしょう。2025年には、人口ボリュームが最も多い「団塊の世代」（1947年から1949年生まれ）が全員75歳以上、後期高齢者になります。そのため、日本の人口の年齢別比率が劇的に変化して「超高齢化社会」となり、雇用や医療、介護、福祉など、様々な分野に大きな影響を与え、問題が急激に顕在化すると予想されているのです。

一方で、日本人の平均寿命は近年においてもさらに延伸しており、「人生100年時代」との指摘が全く大袈裟には聞こえないほどの長寿社会を迎えています。健康な高齢者も増えていて、日本人の健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は74.1歳で、堂々の世界1位です。100歳以上の高齢者も53年連続で過去最多を更新していて、今年9万2139人（9月1日現在。うち88.5%が女性）。ちなみに、高松市在住の100歳以上の方は350人ほどおられます。そして、「いま50歳未満の日本人は100年以上生きる時代を過ごす可能性が高いといえる」と、ベストセラーとなった「LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略（東洋経済新報社）」で記されています。健康で長寿を全うできる社会は、それだけ豊かで幸せな社会であるとの認識を持つことも肝要なのではないでしょうか。

2025年には、大きな楽しみもあります。日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催されるのです。1970年に開かれた前回の大阪万博のテーマは「人類の進歩と調和」でした。それから55年経った2025年万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」です。「進歩と調和」に変わり、「多様性」や「持続可能性」、「デザイン思考」、といった言葉が未来社会の時代のキーワードとして浮かび上がってきます。

本市においても、「2025年問題」を「未来社会」の入り口の関門として捉え、「いのち輝く明るい超高齢化社会」をデザイン出来ないものかと考えています。

